

経済・金融 フラッシュ

5月日銀決定会合：

景気判断を回復に上方修正、成長基盤強化を支援するための資金供給の骨子素案

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

(景気判断を上方修正 : 持ち直し ⇒ 回復)

日銀は20・21日の政策決定会合で、政策金利の誘導目標を0.1%前後に据え置くことを全員一致で決定した。

景気の現状判断について「海外経済の改善を起点として緩やかに回復しつつある」とし、これまでの「持ち直しを続けている」から判断を上方修正した。

個別項目では、設備投資については「持ち直しに転じつつある」とし、4月の「下げ止まっている」から上方修正。個人消費は「耐久消費財を中心に持ち直している」と先月と同じ判断となったが、4月の「厳しい雇用・所得環境が続いている」との文言がなくなった。

20日発表の1-3月GDPでも示されているように設備投資が2四半期連続で増加し企業部門の改善傾向が明確になるとともに、家計部門にも明るさが見え始めている。今回の上方修正も日銀が4月末に示した展望レポートのシナリオどおりとの見方だと思われる。

日銀 景気判断・見通し(黄色は上方修正を示す)

	現状
2010年5月	景気は緩やかに回復しつつある
2010年4月	景気は持ち直しを続けている
2010年3月	(据え置き)
2010年2月	(据え置き)
2010年1月	(据え置き)
2009年12月	(据え置き)
2009年11月	景気は持ち直している
2009年10月	景気は持ち直しつつある
2009年9月	景気は持ち直しに転じつつある。
2009年8月	(据え置き)
2009年7月	景気は下げ止まっている。
2009年6月	景気は大幅に悪化したあとに下げ止まりつつある。
2009年5月	景気は悪化を続けているが、内外の在庫調整の進捗を背景に、輸出や生産は下げ止まりつつある。
2009年4月	(据え置き)
2009年3月	(据え置き)
2009年2月	(据え置き)
2009年1月	景気は大幅に悪化している。

(成長分野への供給手段：融資制度の骨子を発表)

日銀は21日に「成長基盤の強化」を目指す新しい融資制度の骨子を発表した。

貸付利率は無担保コールレートの誘導目標水準。貸付期間は原則1年として借り換えを可能。共通担保を担保とする貸し付け(共通担保オペと同様の方式)、対象先は共通担保オペ(全店貸付)の対象先のうち希望する先などである。

日銀は今後、さらに具体的な検討を進めていく予定(6月に公表予定の政府の成長戦略にあわせて詳細がでてくるだろう)だが、成長分野・産業を銀行がどうやって決め、その申請に対してどういう判断基準を日銀が示すのかなど詳細を詰める段階でもめそうな事案はたくさんある。

筆者は日銀が成長戦略に動き出すこと自体に違和感、不自然さを感じる。

そもそも日銀もこの新制度で大きな効果がでてくるとは思っていないだろう。しかし、①デフレ・景気の先が見えない中で追加金融緩和への圧力はこれからも続く、また②政府も成長戦略を書き上げる中で日銀としても側面支援を行わなければならないという考えがあるのだろう。

成長基盤強化を支援するための資金供給の骨子素案

1. 対象先

共通担保オペ(全店貸付)の対象先のうち希望する先

2. 資金供給の方式

共通担保を担保とする貸し付け(共通担保オペと同様の方式)

3. 貸付期間

原則1年とし、借り換え(ロールオーバー)を可能とする。

4. 貸付利率

貸付時の無担保コールレート(オーバーナイト物)の誘導目標水準

5. 対象先毎の貸付額

対象金融機関から成長基盤強化に向けた取り組み方針の提示を受け、そのもとで行われた融資・投資の実績に基づき、当該金融機関に対して貸し付けを行う。

6. 貸付総額、貸付受付期限等

成長基盤強化に向けた融資・投資への金融機関の取り組み状況等を踏まえ、本措置の開始時に、貸付総額、貸付受付期限(新規に貸付を受け付ける期限)、借り換え可能な回数を定める。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。